
大和の義兄は最強の武人！！

怒レイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大和の義兄は最強の武人！！

【Nコード】

N9854Y

【作者名】

怒レイン

【あらすじ】

2 Sと2 Fの川神大戦に大和の義兄の蓮夜が乱入する！

本編は川神大戦から始まります。

主人公プロフィール

オリジナル主人公プロフィール

『名前』

・織田おだ蓮夜れんや

『性別』

・男

『身長・歳・体重』

・176?・17歳・67?

『好きなもの・嫌いなもの』

好き・風間ファミリーと肉と剣

嫌い・ホモやレズ

『容姿・性格』

容姿・白銀の髪に赤い目をしている。顔は上の上でかなりのイケメンである（本人は自覚をしていない）。

性格・自由気ままでやりたい事や興味があるものには積極的に参加するが興味が無いものは適当やる。大和や翔一は甘い。

蓮夜は日本の道場や暗部を総ナメしている。蓮夜が行った道場は尽く潰れている（師範が負けるから）。ちなみに武器は拳一つだけ

一話（前書き）

主人公は流派にこだわりません

一話

蓮夜「やっと着いた」

大和に呼ばれて川神に帰って来たが・・・

蓮夜「川神学園じゃ無いのか？この紅いのは何だ？」

ブルルルル

蓮夜「大和！お前何処に居るんだ？」

『今は川神大戦で2 Sと戦って居るんだ』

蓮夜「！今すぐ行くから持たせるよ大和！！」

『分かったよ。早く着てよ兄さん』

そういつて電話を切った。

蓮夜「よっしゃ！早速行くか！」

大和サイド

大和「ふう〜。」

翔「誰から電話が来たんだ大和？」

大和「頼りになる人兄貴？」

翔一「あの人が来るのか！？」

岳人「あの人つて・・・蓮夜か！？」

クッキー「蓮夜が来るなら大丈夫だね！」

卓也「でも、いつ呼んだの？大和？」

大和「先週だよ」

大和サイドOut

うーん。着いたはいいが、あちこちに強い気を感じるな・・・

蓮夜「むっ！、モモ先輩が強い気の奴を倒したな。大和から聞いたがモモ先輩は敵だよな」

なら決まりだな

百代サイド

まゆつちを倒した後、揚羽さんと松永を倒さなきゃか・・・

揚羽「九鬼家決戦奥義・古流昇天波！！」

ズドーーーーーン！！

百代「腕は衰えて無いな揚羽さん!!」

燕「行くよー百代ちゃん!!」

ビュウウウウ!!

百代「川神流星殺し!!」

プキユイイイン!!

燕「きゃああああ!!?」

燕さんを飛ばした時に懐かしい奴が現れた

スドーーーーーン!!

「久しぶりだなモモ先輩」

百代サイドOut

揚羽さんも燕さんもやられかけてたし

蓮夜「久しぶりだなモモ先輩。」

百代「大和め、まさか揚羽さんだけじゃなく、蓮夜まで引き込むなんてな」

蓮夜「燕さんと揚羽さんは休んでいてください!!」

揚羽「ああ、頼んだぞ蓮夜」

燕「よろしくね蓮夜くん」

さて、久しぶりに本気を出すか

百代「行くぞ蓮夜！ 禁じ手・釘椿！！」

蓮夜「仁雷裂波っ！！」

ズガーーーーーン！！

百代「くっ！？」

蓮夜「タアアアアアア！！」

百代「ハアアアアアア！！」

シュンツビシツシュンツシュンツシュンツシュンツシュンツシュンツドカツシ
ユンツドカツシュンツシュンツ

蓮夜「チツ・喰らえっ！！」

百代「大振りを待っていたぞ！！」

ズガーーーーーン！

百代「弱くなつたな蓮夜」

蓮夜「・・・ニツ」

ボコボコボコッ

百代「しまった!?!」

蓮夜「…川神流・人間爆弾…」

ドカーーーーン!!

百代「うわっ!?!」

蓮夜「ハアアアアアッ!?!」

シュウウウウ!!

パン、パン、パン!!

鉄心「川神大戦終了」

バシッ

蓮夜「!!」

百代「・・・?」

翔「討ち取ったぜえー!!」

「「「イエエエエエエ!!」」」

おっ、キャップ達が勝ったか

蓮夜「終わったみたいだな」

百代「負けたのか？」

揚羽「百代」

燕「百代ちゃんの力は強いんだけど脆いんだよね」

百代「……脆い……」

しばらくして

大和「う…うん…」

岳人「やっとおめざめか特攻軍師？」

京「大丈夫、大和？」

大和「大戦は？」

一子「キャップがちゃんと決めてくれたわ。それに蓮夜がお姉さまを止めてくれてたし」

クリス「うむ、あと一步でモモ先輩は負けてたな」

由紀江「凄かったですね」

翔「そんな事より勝鬨を上げようぜ！」

大和「分かった。…みんな！権利の権化であるS組は倒した！俺達の勝利だ！！えい、えい、おー！！」

「えい、えい、おー！！！！」

一話

蓮夜「何時までついて来るんだ、百代先輩？」

朝会ってからずっとついて来るし

百代「いいじゃんか別に」

蓮夜「俺、これからゲーセンに行くんだけど」

と百代先輩に何回目か言ったら

「兄ちゃん可愛い彼女を連れてるじゃねえか」

「女を置いてさっさとどっかに行きな!!」

「そうだぜ。その姉ちゃんには俺達二十人とやって貰うんだからな」

ザコ臭のする奴が現れた。しかも最後の奴キモっ

蓮夜「一応聞くけど百代先輩の知り合い？」

百代「そんな訳ないだろ」

なら

蓮夜「ぶっ飛ばすか」

「野郎！女の前だからって調子に乗りやがって、やれ!!」

「うおおおおお！！！！」

いつせいに掛かって来たが、動きが素人過ぎる

蓮夜「遅すぎる。織田流・獅琉翔雷！」

蓮夜は百代先輩を抱えて飛び、片手に気をためて雷が落ちる様に気を放った

ズドーーーーーン！！

「……………チーン」

全員に命中して二十人は気絶した

蓮夜「ザケ」

百代「れ、蓮夜？さすがにいきなりは困るのだが／＼／＼／＼」

現在はお姫様抱っこ中

蓮夜「ワリイ、ワ…リ…イ…？」

百代「どうし…た…？」

蓮夜と百代の前には大和と風間ファミリーの（百代を抜いた）女子が変な犬を追いかけていて、こっちに向かって走って来てた。

蓮夜「とりあえずあの犬を捕まえてくる」

百代「分かった」

大和達サイド

大和「兄さんと姉さんだ！兄さんー！その犬捕まえてー！」

蓮夜「オーライ、行くぞ犬！鱗殺しー！」

シュシュシュシュシュ！！

大和「殺してじゃないー！」

「ワオオオオオン！」

スカツスカツスカツスカツ！！

蓮夜「避けた！？ならば死点！」

ガスッ

「キュウウー！」

ドスッ

大和「死んでないよね？」

蓮夜「安心しろ死点に気を流し気絶させたただけだ」

百代「蓮夜。あとで私と戦って貰うぞ」

一子「どうすればそこまで強くなるの？」

由紀江「一手ご指南して欲しいです」

蓮夜「ただ道場を潰して日本を回っていただけだ」

クリス「それは悪ではないか!？」

蓮夜「安心しろ。授業料をぼったくる所を潰すだけだ」

京「そういえばモモ先輩と蓮夜は何で二人で居るの？」

大和達サイドOut

京「そういえばモモ先輩と蓮夜は何で二人で居るの？」

京にそう聞かれたから普通に

蓮夜「しら「デートだ」ん…?」

「「「え、ええええええええええ!？」」「」

蓮夜「違うからな。」

百代「チツ…連れないな蓮夜」

蓮夜「あらかた、鉄心さんにもっと女らしくしろってんで龍封穴を喰らったんだろ」

百代「そつだぞ。それでどんな奴が来ても守ってくれるのが蓮夜しか居ないからな」

大和「なるほどね。まあ、俺達は依頼も終わったし帰るね」

と言つて、大和達は帰つて行つた。

蓮夜「俺達も行こうか」

百代「ああ」

三話（前書き）

次まで百代サイドで話が進みます。

三話

川神大戦から一週間がたった日、鉄心さんに呼ばれて川神院に行つて蔵の掃除を頼まれたのだが・・・

連夜「ガラクタや埃だらけだな」

掃除を頼まれたが埃だらけなので飽きたから面白そうな物を探しているが見つからない。

連夜「・・・おつ。それらしいのがあるじゃん！」

いかにも面白そうな箱があったから開けてみるか

連夜「なんだ・・・秘伝書?・・・字は読めないが試してみるか」

百代サイド

買い物が終わって帰ってきたはいいが・・・

百代「騒がしいが何だ？」

挑戦者かと思ひ向かおうかと思つたやさきに遠くから人が飛んで来て壁にぶつかった

百代「どうしたんだ？」

「く・・・むむ。ん?百代殿お帰りなさいませ。じつは、連夜殿が急

に暴れ出して」

百代「連夜が・・・？」

私は急いで連夜の所に向かったのだが

「連夜殿！落ち着いて あべしっ！」

「いつせいにかかって取り押さえ うわらばっ！」

よく分からないが、リー師範代がギリギリ押さえている感じだった

百代「連夜！」

とりあえず呼んでみたら連夜は動きを止め、私だとわかった瞬間一足飛びに飛びかかってきた。

ドシーンッ

百代「いつつ・・・連夜？」

あまりの速度に避ける事ができなかったが痛みを我慢して連夜の名前を呼んだら

連夜「にゃあ」

と鳴いたのだった。

しばらくして

ルー「連夜はおとなしくしている力」

連夜「フーツ！」

連夜が威嚇をしたのでルーさんはそれ以上は近づくのをやめた。

百代「どうでした？」

ルー「原因がわかったヨ。保管してあったいわくつきの秘伝書ネ」

百代「大丈夫なんですか？」

心配なのでルーさんに聞いてみたら

ルー「命に関係はないネ。象形拳と言うのを使って自己暗示で動物そのものになってしまう技だネ」

百代「動物そのものに。ならまた暴れ出さない様にみんなの所に連れて行くか」

ルー「よろしく頼むネ」

その後川神院を離れ秘密基地に向かった

しばらくして

百代「みんな居たのか」

大和「暇だったからね。ところで兄さんは何をしてるの？」

と大和が聞いてきたのでありのまま話た。

大和「じゃあ兄さんは・・・」

百代「ああ、今は猫だ」

一子「連夜に触っても怒らないお姉様？」

百代「秘密基地に連れて来てからは暴れてないから大丈夫だろ」

私がそう答えたらワン子が警戒しながら連夜の頭に触れた

連夜「ふにゃん？」

連夜は視線を上げワン子を見たら嫌がる素振りは見せず、気持ちよさそうに目を細めた

ワン子「可愛いわ〜」

連夜の頭を撫でてワン子は満足したようだ。その後も京やまゆっち、クリス、モロ、大和、キャップまでは撫でれたが

岳人「俺様も触るぜ！」

岳人が触ろうとしたときに連夜が動いた

連夜「ふしやー！」

勢いよく連夜が岳人に猫パンチを岳人に食らわせた

岳人「ぐはあああ！」

百代「今は猫だから怒らせるなよ」

翔一「怒らせると岳人みたいになるな」

岳人「別に怒らせる気はなかったんだが」

由紀江「今は意識が猫なんですから手加減がきかないってますから」

岳人「怒らせる気はなかったんだがな」

卓也「猫だから警戒心が強くなってるんだね」

モロが冷静に分析した

クリス「岳人が悪いな」

京「そうだね」

クリと京に言われて岳人は落ち込んだ

百代「まあ、こんな感じで連夜は今はとっても不安定だから、みんなにもしばらく協力を頼みたい」

翔一「任せとけ！」

そうキャップが胸を叩いて請け合い、ほかのみんなも同調してくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9854y/>

大和の義兄は最強の武人！！

2011年12月11日00時48分発行